

第3回自治連役員会

議事録

- 表彰・近況共有（10月1日の受賞）
 - 自治連会長が公共福祉部門など2部門受賞、代表挨拶も務めた。地区から他にも受賞された方がいた。
- 総会を5月から4月へ前倒し、年明け一月末に役員会を開催予定
- 新生会議（10月7日）の報告
 - 地域6団体会長と意見・情報交換、課題共有
 - 広報誌の統合提案あり。「櫛」年1回発行のデータを入れるだけにするか。自治連として次回役員会で統合の是非・運用方法を検討
- 自治連からの退会意向への対応
 - 某自治会が臨時総会で自治連退会決定済との連絡があった。自治連の規約では地区内の自治会町内会は加入が前提であり、当該自治会役員会を訪問し、説明と再考依頼をする方向
- 防災イベントの共同開催要望と各地区の取組
 - 自治連主催の合同防災イベント要望された。来年実施を検討。各団体の得意分野を活かした連携型が望ましい
- 地区防災フェアでは自治連もブースを出し、藤沢翔陵高校の学生ボランティアと紙スリッパ作り等を一緒に行った
- 災害時のトイレ運用と汚物処理
 - 断水時は便座二重袋＋吸収材（新聞紙・おむつ・猫砂）を基本、消臭剤併用
 - 使用後は内袋のみ結束し保管。大人用おむつの厚み等の注意点共有
 - 自力対応は2週間程度を想定（輪島約2週間、東日本約3ヶ月の事例）
- 不燃ごみ・災害廃棄物の仮置きと処理計画
 - 家具等の不燃ごみ大量発生を想定し地域の仮置き場所計画が必要
- 戸建ての埋設対応の話題も出たが地域方針の整理が必要
- 防災用ポータブルトイレ（ラプコン等）の活用課題

- 周知不足で未使用在庫化の事例（輪島で100台未使用）
- 感染症予防にも有効で取り扱い訓練が重要
- 防災資材の備蓄状況と住民参加促進
 - トイレ関連備蓄が不足、レクチャー単独では集客難
 - キャンプ要素やイベント併設、企業協賛（試供品、防災グッズ配布）で参加率向上
- 物資配給の模擬訓練（市場・販売イベント活用）
 - 野菜即売イベントを一方通行導線で運営し配給模擬訓練を実施
 - 市からの配布など配給フロー体験の事例、「わいわい」等と連携が有効
 - 結論: 地域イベントと配給訓練の兼用は有効
- 団体との連携
 - 間口を広げると専門性が薄れる懸念があると言われる団体もあるが、その専門性を活かした連携が必要である
- 共同募金（赤い羽根・歳末助け合い）への対応
 - 町内会で募金着服問題があり、イオンが募金活動を取りやめるなど信頼揺らぎ
 - 地区ごとに募金実施の有無が分かれる。昨年は47地区が事前集金し一括納付
 - 事例共有
 - パークサイド駒寄 目標額設定への疑問から一括集金を見直し、任意投函方式へ変更。事務局から督促があり前回赤い羽根募金は見送り。総会決定の必要性の指摘あり
 - 別自治会: 年初総会で募金額も承認。役員会が勝手に変更すると説明困難
 - 共通課題: 使途の不透明、目標額のノルマ化、任意性と自治会集金の矛盾
 - このあとの意見交換会で、意見は社協会長が直接答える。募金しなかった予算の祭り充当など代替案も議論。
- 会費・助成金の使途の可視化
 - 市助成金と自治会費の区分が不明瞭との指摘あり
 - 自治連は自治会費で賄う活動部分の明確化と説明機会の増加方針
- 地域活動応援費の審査状況
 - メールで審査進行、複数件は予定通り申請・支払い済
 - 不明点はメール返信で指摘する運用

- ふるさとまつり（10月24日・25日）
 - 自治連としてブース出展なし、田中副会長が実行委員として参加
 - 説明会は実施済、天候懸念も準備は順調
- 新春のつどい（賀詞交換会）
 - 去年は他地区と重なり、市長参加を考慮し日程をずらして開催、1月16日土、ゆったり進行を期待
 - 前日準備は午後から（舞台設置・シート引き）。平日で若手参加が難しい可能性、事務局と役員他有志で対応
 - 参加費で全て賄う。
 - 自治会長の参加促進: 46自治会中13～14程度と低調のため、本日アナウンスで1月16日参加を呼びかけ。学校長・各団体長・企業も参加予定で交流を期待
 - 余興企画: 若手中心で企画し12月10日役員会で承認予定。高校生協力員（西高・川原君）参加意向

次回の役員会は、12月10日木曜19時から。